



第30回 卒業証書授与式

本日3月1日、多数の来賓のご臨席のもと、卒業証書授与式が
行されます。山梨県立甲府昭和高等学校第30期生、275名が学
舎を旅立ちます。これで創立以来の卒業生は9,674名を数えます。
新卒業生の活躍と輝かしい未来に対し、心からの祝意を表します。



紫映通信

第31号

発行 山梨県立甲府昭和高等学校
印刷 山梨県立甲府昭和高等学校
P T A 事務 印刷 山梨県立甲府昭和高等学校

人生は厳しいもの 転んだら起きる



校長 内藤 剛

第三十期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さまにおかれましては、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。日頃より、本校の教育活動に鈴木会長を中心に尽力いただき、感謝しております。

卒業生の皆さんは、これから、少子高齢化が進み、他の先進国に先駆けて解決しなくてはならない課題を多く抱える社会と向き合うこととなります。その課題に対する答えは簡単に見つからない世の中になっています。複雑化する課題に向き合うには、文化的な背景が異なる人とも協力して、解決の方向を模索することになります。時には、痛みを伴う内容でも強いリーダーシップで決断することも求められます。これからの社会をよりよく生きることが、決してやさしいことではありません。だれでも安易な道を選ぶようになるでしょう。しかし、安易な生活に幸福はもたらされない、と強い意志を持ってください。人生は厳しいもの、自分で切り拓くものと踏ん張ってください。

人生に繰り返しはなく、青春は再び帰ってきません。青春のまっただ中にいる皆さんは気づかないかもしれませんが、宝石のような青春をいただいた皆さんは、自己を愛さなくてはなりません。自己を愛するとは、自己を向上させることです。深い知識、広い教養、良い性格、たくましい体格等は、いつの時代でもかけがえのない美德です。これらなくしては、人間の向上はありません。何のために学ぶのかを考えると、人間の向上のためと応えてくれた人もいました。これらの知識・道徳的美

徳を少しずつ養育することができるのは、若い世代の皆さんだからこそできるのです。この機会を逃せば、永久に不可能になってしまつてしまう過言ではありません。また、このことは生きることと共に皆さんに与えられた責務でもあると言えます。

安易を喜ぶ人間は、すでに若者としての資格を失っているのです。逆に、若者の資格は困難な道に立ち向かえることなのです。うまくいかないことも多いはずで

卒業に向けて



PTA会長 鈴木 秀雄

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。本日、皆さんはこの甲府昭和高校を卒業すると同時に、それぞれの道を目指し果立っていく時を迎えました。授業などで様々な知識を、またクラス活動・部活動・研修旅行・紫映祭・競歩大会などを通して人とのつながりや自分自身を見つめる機会など、これからの人生の基礎となる大切な事をたくさん蓄積された事と思います。これから皆さんは、これらの経



す。転んで起きるとき、分岐点で考えるとき、本校での学校生活を振り返り、TRYする道に進むことを期待します。

験を基に、自分自身で判断し人生を切り開いていく事になります。今まで苦労してきた試験などはほとんど答えが「一つ」に決まっていたでしょう。また、沢山の事柄を正確に覚えたか試されたものだったでしょう。それは、今後さらに勉強を進め、生きて行く上で必要な知識をたくさん身につける為のものだったからと考えます。今後は、みなさんが蓄えてきたものを駆使して判断を求められる事が多くなります。そしてその答えも具体的な正解は無く、正しかったのか、違っていたのかも後になってみないと判らないものばかりです。言い換えれば、教科書・ノ

ト・参考文献・スマホ何でも持ち込み可能で自分自身が今正しいと思う事を求められるのです。そして答えは今でなく後に結果となって判ってくる事が多いのです。親としてアドバイスを送りたいと思います。今後も積極的に色々な事を吸収し、たくさん経験を積んでほしいと言う事です。情報のアンテナを高く張りいろんなことに挑戦して欲しいのです。その積み重ねが今後正解の無いテストを解いていく力になると思うからです。次に、プラス思考を心がけてもらいたいと言う事です。これからの道は決して順調な事ばかりではありません。山があり谷があり分かれ道があり右か左かどうしても決断しなければならぬ事がたくさん出てきます。そんな時、知識・経験と共に大切な事は「心の持ちよう」です。「もう駄目だ出来ない」と出来ない理由をあげモチベーションを下げるのか「どうしたらこのピンチを乗り越えられるか」と気持ちを前に前に向けるように努力するのかという事です。コップに残った水の有名な話「もうこれだけしか残っていない」を「まだこれだけ残っているじゃないか」と気持ちを切り替えられるかです。皆さんがこの甲府昭和高校で身に付けてきたさまざまな力を信じ、これからの人生を楽しんで行くよう願ってやみません。未来に向かって「TRY」

卒業生に贈る言葉

卒業にむけて(出航へのエール)

P T A 副会長 (三学年部会委員長)

根 岸 哲 也

第三十期生の皆さんご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様におかれましては、心よりお祝い申し上げます。

三年間の学校生活での授業や部活動、さらには修学旅行、紫映祭などの行事が様々な思い出として皆さんの頭の中を駆け巡っていることでしょう。それら全ての経験がこの三年間での自己成長へと繋がってきたと思います。時には辛い事もあったかもしれませんが、しかし、そのひとつひとつの積み重ねが皆さんの未来を確実に照らし続けてくれるものと、自信を持って卒業してください。

人生とは何でしょう？ 人によって答えは様々だと思いますが、それは絶えず自分が生きている事を実感すること、同時に、人と共に生きている事を実感すること、ではないでしょうか。自問自答の繰り返しが続くことでしょう。その時に、自分自身を見つめ知り、周りの状況を的確に捉えながら何をすべきかを考え行動することが大切だと思います。これから皆さんは社会にでることになります。今までは先生や保護者がしてくださったことを自分の判断でしていかなくてはなりません。自分の思う様にいかない事もきっとあるでしょう。困難な出来事にぶつかった時には、決して一人で抱え込まず人の助けを求めることも必要です。それを乗り越えた時こそ、大きな成長があり、大きな力になりまた宝になるでしょう。そして人生を実感することとなるでしょう。

どうか、甲府昭和高校卒業生の誇りを胸に努力、鍛錬、自主創造を怠ることなく精進し周囲から信頼される大人へと成長してってください。そして、笑顔を忘れることなく！大きな海原に出航してください。

卒業する皆さんへ

P T A 副会長 (二学年部会委員長)

五 味 勝 己

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。

卒業生のみなさん、昨年の「今年の漢字」に「安」が選ばれた事を覚えていますか、「安心・安全」の安です。今まで皆さんはこの「安」に守られてきたのです。安全な学校で、安心できる人々に、そして安らかな家族に見守られて今日まで育ってきましたね。そこから巣立ち、社会の一員となる皆さんは、これからは自分の力で歩いて行く事になります。今まで皆さんを守ってくれていたお揃いの制服を脱ぎ、自分の力で自己を表現していくのです。今年から、「十八歳選挙権」も施行され、さっそく大人として自分の意思を表現することになります。ひとつひとつの行動に対する責任というものも大きくなってきます。大人社会へ踏み出すことへの不安の「安」も多いかもしれませんが、この先、長い人生の途中には、楽しく素敵な事がたくさん待っています。でも、時として辛く大変な出来事が起きる事もあります。もし迷った時には慌てずに高い木の上で一休みしてください、「安」が「木」に登って進む方向を案内してくれるかもしれません。

新たな生活を迎えるにあたり、夢や希望にあふれ、不安や迷いも多いことだと思います。ある歌の歌詞にこんな一節がありました。人生は、『何十年か好きに生きていい 特別なプレゼント、だから楽しみにしながら ゆっくり開けたら良いんだ』まさに、あなただけに届いた素敵なプレゼントなのだから、一日一日を楽しみしながら箱を開けていって下さい。毎日を思い切り悔いなく楽しんでください。自分のペースで慌てることなくゆっくりでもいいんじゃないですか。そんな特別なプレゼントをあなたは手にしたのだから。

そして忘れないでください、その素敵なプレゼントをくれたご両親への感謝の気持ちを……

心からの言葉を大切に

P T A 副会長 (一学年部会委員長)

小 林 淳

卒業生の皆さん、ご家族の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

卒業生の皆さんは青春の一ページを過ごしたこの甲府昭和高校より、自分の新しい人生のステージに向けて旅立っていきます。進学、就職と人それぞれ違う道に歩んで行くことでしょう。皆さんがこれから一歩を踏み出す現代社会には多くの困難が待っていると思います。

しかし、その困難は皆さんが自分というものをしっかりと持っていれば恐れることはありません。今の時代、SNS等の発展により人と直接顔を合わせて会話をしたり、対応することが少なくなりました。メールなどで簡単に大切なことを済ませてしまっていることと思います。そんな時代だからこそ、皆さんには覚えてもらいたことがあります。

それは挨拶が出来ること、感謝の言葉と謝罪の言葉が言えることです。

語弊があるかもしれませんが、この三つがしっかりと相手に伝われば、大概は何とかなると思います。挨拶されて嫌な気分になるでしょうか。何か助けてもらったり、力を貸してもらった時「ありがとう」と自然に口を出ませんか。間違ったり他人に迷惑をかけた時に「すみません」と言えますか。複雑な社会構造、人間関係だからこそ、自分の心からの言葉として、「おはよう、こんにちは、ありがとう、すみません」

この基本的な気持ちが相手の心に届くものだと思います。この甲府昭和高校で三年間を過ごした皆さんなら、きっと出来ることだと信じます。皆さんの歩んでいく道が光り輝く素晴らしいものとなりますことを心よりお祈り申し上げて、皆さんへの言葉とさせていただきます。

P T A各専門委員会より

卒業生のみなさんへ

進路指導部専門委員長 望月 明 仁

県立甲府昭和高等学校第三十期卒業生の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。また、保護者皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

皆さん保護者様とも、あっという間の三年間ではなかったかと思えます。そのなかで皆さんは、勉強に部活動に委員会に紫映祭にと、励まれたかと思えます。

また、修学旅行等も、貴重な良き思い出となったでしょう。

さて皆さんは、これから大人として歩んでいきます。これからも楽しい事や、厳しい事色々な経験をお願いします。楽しみながら、くじけず成長して下さい。

皆さんには、これからも夢や希望が沢山あります。自分の可能性を信じて下さい。協調性は不可欠ですが、時にはあまり他人と比べず、人の役に立てれるように自分自身よく考え、今出来る事に挑戦して欲しいです。多くの人に接して学んで下さい。そして多くの人が皆さんを支えます。希望は一生懸命に行っている人に必ずかかっています。

最後になりますが、三年間、校長先生をはじめ全教職員皆様に身守られて高校生活を過ごさせて頂き、心よりお礼を申し上げます。そして卒業生皆さん、保護者皆様、甲府昭和高等学校に携わる皆様、今後のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。誠にありがとうございます。

初心忘るべからず

生徒指導部専門副委員長 竹村 博之

第三十期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご父兄、保護者の皆様には心からお祝い申し上げます。

生活指導部としての活動は通学時の交通安全推進や紫映祭一般公開時の校内パトロールなどを行いました。生徒一人ひとりと関わりあう事はありませんでしたが、交通安全指導の際、台風の豪雨にも関わらず、元氣良い挨拶をして自転車通学して行った甲府昭和生。紫映祭では授業や部活では見せない、あどけなさが残った笑顔で各種イベントを進行していた甲府昭和生。そんな元氣な姿を見て、大きな事故や事件もなく卒業を迎える事ができ、本当に良かったと思います。今後、運転免許を取得しバイクや車に接する機会が増えると思いますが、安全第一を心に刻み社会人への一歩を進んでもらいたいのです。情報化社会の昨今。知りたい情報を瞬時に入手でき、共有する事も出来ます。反面、関係ない情報や知りたくない情報も簡単に得ることが出来ます。多くの事を理解する事は人生の選択肢を増やす事になりますが、一歩踏み外すと取り返しのつかない事態になる事があります。この情報化社会だからこそ、自らの意思で有益、無益の判断をし、素晴らしい人生を歩んで下さい。

三年前、甲府昭和高校に入学した時、どんな気持ちでしたか？ 合格発表のあの日、入学式の前日。夢、希望と共に不安に満ちていたあの頃。それから三年。多くの友人、知人とふれあい、励まし、励まされ。時には辛く喧嘩もしたことでしょう。先生、諸先輩方のあたたかい指導に、悩み、考え、喜び。部活動では肉体と精神の成長と共に目標に向かって日々練習してきたと思います。そんな多くの事を選択、経験し、切り開いてきた三年間。歩んできた道、その決断が今後の人生に於いて、大きな糧になって行くことを願っています。三年間、いまだから振り返る、振り返る事が出来る懐かしい思い出。これから先、進学や就職をされていく皆さんだから、この思い出を振り返り、忘れず今後の大きな一歩をとして進んで下さい。

最後に甲府昭和高校の教職員の皆様、卒業生のご家族、そして卒業生の皆さんの今後の活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

思い出を胸に

保健体育部専門委員長 赤尾 希代子

第三十期卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。記念すべき第三十期生として卒業できることを、とても幸せだと思えます。

保健体育部は、強歩大会への協力が主な活動でした。当日は、ご協力いただいた皆さんの保護者の皆様、そして役員の皆様には心より感謝申し上げます。そして準備段階から当日の運営にいたるまで、先生方の並々ならぬ御指導、本当にありがとうございます。

年に一度の行事で、雨天の場合は中止の予定だったので、とにかく雨が降らないようにと祈っていました。当日は、晴天に恵まれ穏やかな天候で、日頃の生徒たちの頑張りにも神様も見方をしてくれたのだと思います。

この日のために、授業の中でも練習に励んでいた生徒たち。自分との戦い、ライバルとの戦い。タイムとの戦いといった真剣勝負。完走すること、友情を深めること、甲府昭和生として思い出を作る、とても良い機会だったと思います。

スタートの合図とともに、全力疾走をする姿には、若い力を感じ、こちらもドキドキ・ワクワクしました。その後、真っ赤な顔をして息を荒げ、倒れ込むようにゴールした生徒。足を引きずりながら、必死で最後まで走り抜ける生徒たちの姿にとても感動しました。皆とても良い表情でした。

卒業生の皆さんは、強歩大会も含み、三年間多くの行事に取り組みたくさんの思い出が出来たことと思います。高校三年間で経験したことは、今後の人生の糧になり、友人や仲間は大変な宝物となることでしょう。それぞれの道に向かって力強く歩いて行って下さい。

最後に三年間御指導いただいた教職員の皆様に心より感謝申し上げます。今後のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

総務

一年間の活動報告

主任 千野 満 広

祝卒業三十期生の皆様。今年度のPTA活動としては、七月の関東高校PTA茨城大会に根岸副会長に、八月の全国高校PTA岩手大会には、鈴木会長に出席してもらいました。また、進路専門部は六月に進路講演会を実施しました。保健体育専門部は十月に、強歩大会に備えての心肺蘇生法の講習会を実施しました。大会では、

広報活動では、マスコットキャラクター「トライス」を活用した活動を行いました。様々な印刷物等に「トライス」を掲載したり、「トライス」の活動の様子（一日警察署長等）を記事にしたりしました。また、購買では「トライスグッズ」を販売しました。（バッジ・ファイル・付せん紙）次年度も、新たなキャラクター商品を企画・販売したいと思っています。



生徒指導

一年を振り返って

主任 村 松 親 志

三年生の皆さん、保護者の皆様、卒業おめでとうございます。卒業後の進路は皆さんそれぞれで異なりますが、本校第三十期生の皆さんが新たなステージで大いに活躍される事を祈念しております。

本校には「さわやか教育」という具体的指導方針があり、五分前行動や、挨拶の励行、落ち着きの感じられる制服の着こなしや折り目の付いた言動の実践を通して、学校内外の生活や行動が自律的なものとなるよう皆さんの指導にあ

も、原付バイクであっても、その達成のために取り組んで欲しいと思います。卒業後は皆さんの多くが運転免許を取得、自動車等を運転される事になるはずです。本校で学んだ交通安全の意義を忘れずに、一社会人としてのモラル・マナーの実践を期待します。

教務

卒業に寄せて

主任 丸 山 淳

卒業に寄せて

第三十期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。教務係は、授業を中心とした学校の諸活動を計画・実施することが主な仕事です。高校の授業は内容も専門性を増し、進度も速くなり、苦戦したこともあったかと思えます。しかし、苦勞して手に入れたものは簡単には無くなりません。是非、これからのみなさんの人生に生かして欲しいと願っています。

さて、今年度甲府昭和高校では、新たに「カセット方式」、「紫映タイム」「手帳」を導入しました。「カセット方式」は、みなさんの放課後を確保し、自主的な活動を保障することを狙いとしてしました。昨年度までは七校時まで授業をしている学年があったり、課外を行っていたクラスがあったりしました。が、それらを学校全体で統一しました。その結果、放課後の諸活動を全校一斉に開始できるようにになりました。「紫映タイム」は週一回、自ら学びたい課題を見つけ、自ら考え行動してもらいたいと考えて、始めました。そのため出席確認等はいりませんでした。受講講座の変更も自由でした。世の中は選挙権年齢も十八歳に引き下げら

進路指導

一年を振り返って

主任 秋 山 すみ江

第三十期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。みなさんの「未来予想図」の完成のためのピースとして土曜講座、模擬試験、課外、各種講演会等を使ってお手伝いしてきました。高校卒業、という時期を迎え、予想図の完成までにこれらのピースは役に立っているでしょうか。

「ディベートやプレゼンテーション」の場で自らの考えを発表する力を養ってきました。ここ甲府昭和高校で身に付けた、協同して課題に取り組む問題解決能力と、自己表現力を遺憾なく発揮し、卒業生の皆さん一人ひとりが思い描く、自身の「未来予想図」を完成させてほしいと思います。皆さんが主体となって活躍する場が今後ますます増えてきます。母国語であれ、英語であれ、自らの考えを表現できる力を養うことができた皆さんの今後の活躍を心より期待しています。

現在、社会で求められているグローバル人材像とは「多文化共生の環境で相手を理解し、かつ信頼や尊敬を得るには自分自身の考え方の基軸や価値観をしっかりと持っている」ことと「語学ができるこ

とだけでなく、主張すべきことは主張し、論理的に相手に働きかける力をもっている」とことといわれています。

新学習指導要領では「言語活動の充実」「外国語教育の充実」等がうたわれ、受け身の授業からこれまで以上に自分の考えを表現する授業が数多く組み込まれていきます。甲府昭和高校での学習活動の中でも、卒業生の皆さんは、①「熟議」を通して、課題解決に向け議論する力を、②「アクティブラーニング」を通して、グループワークなど、自分たちで考え、協同して答を導き出す力を、そして、③



年間活動報告と

生徒会

TRY/ SHOWA AtoZ

主任 熊谷剛

第三十期の卒業

生のみなさま、ご卒業おめでとうございませう。

本年度、甲府昭和高校生徒は、各自で目標を掲げ、アルファベット表記し、【TRY/ SHOWA】で表現しました。いくつかの例を挙げると……

張ります。

TRY/ Z ↓ 雑巾がけをします。

その他の活動を紹介しますと、環境美化委員会は、一F渡り廊下の支柱をカラフルに塗り替えました

(TRY/ C)。芸術選択三年生は、下駄箱と中庭のベンチを真新しくペイントしました(TRY/ G)。

挨拶(A)運動から、雑巾がけ(Z)運動までのA~Zの間で、自らの努力目標を明確にしたのです。生徒昇降口には、【TRY/ SHOWA AtoZ】の文字を掲示し、生徒の躍動感ある一日のスタートを見守りました。

さて、生徒会は、第三十二回紫映祭において、『団Tシャツの導入』に奮闘しました。代議員会での審議・生徒総会での意見交換・導入決定後のデザイン画の募集・全校生徒のサイズ調査……等々。その後も、ミーティングを繰り返して、各クラスと何度もやりとりを行いました。全ては新しい事にトライ(TRY/ SHOWA)するためでした。

無から有を創りあげる努力は、生徒の想像を越えるモノでしたが、生徒総会にて議論された内容を実現するために、岩澤会長以下生徒会は、努力を重ねました。そして運動会部門にて、『団Tシャツ』を着用しての競技、そして応援が展開されました。



教養

一年を振り返って

主任 平賀義明

第三十期生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませう。心よりお祝い申し上げます。

教養係としては、主に図書館に関する業務と、文化行事としての教養公演の運営があります。図書館に関しては、本を読むことをとおして豊かな心を育むと共に、授業などで得た知識をさらに深められ、さらには進路決定の一助となるよう心がけています。そのため、生徒や先生方への図書の利用し出しや購入図書、図書館を利用した授業のサポートを行っています。また、毎月「図書つうしん」を司書が発行するだけでなく、各学年ごとの図書委員もそれぞれ一回発行しています。「図書つうしん」の中には、新着図書や図書委員の選んだオススメ本の紹介もあり、SHRで配られた朝には早々に借りに来る生徒もいました。秋にはブックフェアを開催しました。図書委員会が中心となってポスターを描いたり、生徒や先

味わえる達成感を全校生徒が共有できたことを確信しています。『トライス』が、本校に入学を……

果たして、約一年半が経過しました。『トライス』は、本校の発展だけでなく、地域にも大きく貢献する事を目標に前進しています。本校生徒の心を結ぶ絆を大切にしたい。『トライス』は、これからもTRY/ しませう。

況のうちに終わることが出来ました。売上金は東日本大震災への寄付金として活用させていただきます。来年度も図書館を多くの生徒や先生方に利用してもらえよう、一層の工夫をしていきたいと思っています。

教養公演に関しては、本物の舞台を観劇することで、豊かな感性を育むことを目的として実施されています。今年度は劇団わらび座によるミュージカル「ジュリアおたあ」を鑑賞しました。素晴らしい内容と質の高い演技力に魅了され、「感動した」という感想が多く寄せられました。



教養が高められる場面を、少しでも多く提供できるような運営を心がけていきたいと思っています。

研究・研修

研究研修係の一年

主任 藤田晴彦

第三十期生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませう。本校での「智を磨き心をきたへ」た三年間を胸に「大いなるひととならばや」と願っています。

さて、それでは研究研修係の活動について報告します。主な活動は、生徒の学力向上のための学習環境の整備、教師の授業力向上、キャリア教育の推進の三つです。その中で総合的な学習の時間で実施しているSGHアソシエイト企画は今年二年度目になります。

SHGはスーパーグローバルハイスchoolの略称で、「急速にグローバル化が加速する現状を踏ま

え、社会問題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的に文科省が昨年度からスタートした事業です。今年も残念ながらSGHの指定に漏れ、次点であるアソシエイトに五年間指定されました。

今年のアソシエイトの活動は、一年生が地域活性化・環境・産業・文化・芸能の五つの分野において、それぞれの専門家の講演を聴くことにより自分たちの周りにある様々な問題に興味・関心を持

ち、さらに自分たちの周りの課題を発見し解決する方法を探究していくことをテーマに活動しています。十一月には「ビジネスアイデア大作戦」や「ビジネスアイデアコンテスト参加を目指して」をテーマにプレゼンを行いました。県産業労働部成長産業課、やまなし産業支援機構などから審査員を迎えて地元山梨を活性化するためのさまざまなビジネスプランが提案されました。また、二月には二年生が、「山梨の抱える課題をビジネスで解決しよう」をテーマにプレゼン大会を行いました。(一部は英語でプレゼンをしました)これらの活動が将来、世の中に貢献出来る人材に育つことを期待しつつ、来年度の活動をさらに発展させたいと考えています。

保健・環境

保健環境係の活動

主任 風間 久幸

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。新しい環境に飛び出す皆さんにとって、生活の基本となるのはまず健康です。今までのように親任せではなく、自らの責任で自分の健康を管理し、より良い生活環境をつくっていかねばなりません。

保健環境係は、生徒の健康増進をはかるため、健康管理に取り組む姿勢を育成することを目標としています。そのために、時期に応

家庭、時には外部の医療機関などとも情報交換を行い、精神的な面から生徒の学校生活をサポートする環境を整えています。

環境教育の面では、毎日の清掃活動を大切にするよう心掛けています。加えて、おおむね月ごとに大掃除、ワックス塗布、地域美化活動「クリーンキャンペーン」などを実施し、環境美化に対する意識づけと安全で快適な学習環境の維持に努めています。今年度は環境美化委員会を中心に、生徒が被服室前外通路の柱のサビ落としと塗装を行いました。活動の様子は学園祭で展示しましたので、ご覧に

なった方もいらっしゃると思います。さらにエネルギー教育の一環として、一年生を対象に校外学習を実施しました。東京の科学技術館を見学し、東京都市大学・東京海洋大学で原子力研究の専門家の講義を聞くことで、環境・エネルギーに対する問題意識を喚起できたのではないかと考えています。

こうした多様な活動を通じて、生徒が自分を取り巻く様々な環境について自ら考え、改善できる力を身につけて欲しいと思っています。卒業生の皆さん、どうか健康で、益々活躍されることを期待しています。

情報

甲府昭和高校からの情報発信

主任 岩 下一浩

卒業生、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。今、私たちは情報化社会の中にどっぷり漬かっている状態です。世界規模で「ビッグデータ」の収集・管理・解析が行われ、利用されています。私たちは、この見える情報、見えない様々な情報から、取捨選択し、

ことに携わっていますので、少し、紹介させていただきます。

広報に関して、公式ホームページの更新、本校広報誌「TRY SHOWA」の編集、学校紹介ビデオの作成などを行っています。卒業生、在校生の皆さんには、写真掲載等へのご協力に感謝致します。公式ホームページにおいては、甲府昭和高校のよき、特色、学習や部活動、学校行事などの様子を広く皆様に知っていただくために公開し、日々更新しています。本校生徒の生き生きとした活動の様子を、保護者や地域住民の方々に正確で、より新しい情報をお知らせしています。併せて本校を志望している中学生及びその保護者の方々も意識しながらの発信を心がけています。その際には、個人情報等（配慮しています。二〇一六年には本校公式ホーム

ページを約十年ぶりにリニューアルします。

広報誌「TRY SHOWA」の編集、発行を、今年度は六回行います。本校マスコミキャラクター「トリスくん」も登場し、中学生にもわかりやすい紙面になるよう工夫しています。

次に、情報視聴覚機器に関して、生徒用コンピュータやワゴンプロジェクトなどの教育機器等の管理や利用に関するを行っています。教育にICT（情報通信技術）の活用が進む中、授業・講演会などにおいて、情報視聴覚機器があらゆる場面で効果的に活用されています。



コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に利用できるような学習活動を展開していくことが求められています。

情報係として、広報関係及び校内情報視聴覚機器の利用に関する

二〇一六年には本校公式ホーム

これから生徒のために、情報視聴覚教育に関する環境を整え、教育活動が円滑に行えるようにサポートしていきます。

平成27年度 PTA 年間事業

- 4月 8日 入学式・新入生保護者会
10日 PTA学級委員選挙
21日 PTA各学年部会委員会・専門委員会・役員会
29日 公開授業・PTA学年部会総会・PTA総会・PTA学級懇談会
- 5月 18日 県高P連第1回理事会
22日 県高P連定期総会
- 6月 9日 PTA専門委員会（進路）
進路講演会（3年保護者対象）
- 27～29日 甲府昭和高校紫映祭 28日：一般公開日
- 7月 8～9日 第59回関東高P連大会（茨城県）

21～24日

三者懇談（1・2・3年生）

8月19～21日

第63回全国高P連大会（岩手県）

10月13日 PTA専門委員会（保体）（強歩大会関係）

29日 校内強歩大会

12月 中旬 三者懇談（3年生 各クラス随時）

1月25日～28日

三者懇談（1・2年生）

2月12日 県高P連第2回総会 会長・事務局長会議

22日 PTA学年監査（3年）

学年部会委員会（3年）

3月 1日 第28回卒業証書授与式、PTA第3学年部会総会

15日 PTA学年監査（1・2年）

学年部会委員会（1・2年）

年 間 登校時交通指導（生徒指導専門部）

学 年 報 告

これからも「一歩前へ」

三学年主任 熊 王 和 彦



本校の節目となる第三十期生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした三年間は誇張でも何でもなく、本当にあっという間に過ぎてしまいました。もったいなく、あんなことを伝えておけば良かった、あんなことだっただけ良かった、あんな色々な思いが今もよぎって来ますが、目の前の皆さんの表情には大人びた逞しさがはつきりと感じられ、真っ直ぐに成長してくれたことに感謝の思いを抱かずにはいられません。今、振り返ってみて、この三年間、学業に部活動に、学校行事にと、ひたむきに努力してきた皆さんを形容する言葉としては「誠実」が最もふさわしいと感じています。下級生のお手本となるよう、何事にも真面目に取り組む、校訓である「自主創造」を体現してきた皆さんを、学年主任として誇らしく思っています。

さて、私たち三十期生は、入学当初から、学校生活全般において五分前行動の推進を目標に掲げてきました。普段の学校生活はもちろん、スキー教室、研修旅行、学園祭など、プレッシャーのかかる行事においても、常に時間を意識しながら、臨機応変な対応を経験したことで、皆さんは大人の行動が取れるようになりました。もちろんこれは皆さん自身の先読み能力の引き上げを狙ったものだったのですが、そうした姿勢は後輩たちにもきちんと伝わり、学校全体に良い影響を与えられたと感じています。その上で個人的に、私は皆さんに対して、常に新しい物事への挑戦を求めています（集会で話した「一歩前へ」の話は皆さんには耳タコだと思えます）。人間、守りに入ったら痛い思いをすることはありませんが、逆に本当の達成感を得ることもできません。一歩足を踏み出すのは勇気のいることです。この三年間の人生でも、この挑戦姿勢は大事になってくるはずで、どちらの道に進むか迷ったら、より困難な方を選んで下さい。それは必ず自分のやりたいこと、目指すからです。目先の小さな成功に目を奪われるのではなく、十年後、二十年後を見据えて、自分の

夢の実現のために一歩一歩、着実に歩を進めていって下さい。そして新天地では、この甲府昭和高校で培った知識と経験、柔軟な思考と優しさを武器に、甲府昭和高校三十期生としてのプライドをもって、さらなる高みを目指して羽ばたいて欲しいと切に願っています。最後になりましたが、保護者の

知を磨き 心を鍛える

二学年主任 矢 崎 敏 明

「甲府昭和高校の生徒さんはいいですね。挨拶もできるし、時間を守ったきびきびとした行動。素晴らしいですね。研修旅行担当の添乗員さんの一言です。学校としてさわやか教育に取り組んでいる成果を垣間見た瞬間でした。戦後七十年の節目、犠牲者数にあわせた首里城のモザイク画の作成。事前学習としての新聞形式でのレポートや授業での発表。それぞれの取り組みが、日常の座学を離れて自ら学ぶ姿勢を十分に示すものであり、成果を得られたように思います。旅行中は天候にも恵まれ、ほぼ全員がマリン体験に臨むなど、平和学習だけでなく南国・沖縄を学び、堪能し、高校生活最大の行事として、思い残さず感じています。

振り返れば、紫映祭においてはクラス総合優勝が二年生クラスから出るなど、チームとしての団結力、を示す場面もありました。また、昨年に比べると保健室やSCの利

皆様、お預かりした大切なお子さんを次のステージに送り出す時が来ました。皆様の期待にどこまで応えられたか、不安もありますが、学年職員一同、精一杯頑張らせて参りました。三年間、多大なるご理解とご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

用も減少し、仲間を意識して共に目標に向かう姿は心身ともに成長していると感じさせられました。

また、研修旅行後には「なぜ学ぶが喜び」と題した山梨県立大学理事の講演や、山梨大学の学生を中心とする県内大学生六十名のグループワーク等を通して、これからの生き方や学びに向かう意識を高め、三年〇学期として気持ち新たにしています。

十八歳で選挙権が与えられる今、広く社会を見つめる大人としての見識が求められています。叶えたい夢を実現するには、遠い先を見通した行動力も必要です。残された学校生活で納得のいく取り組みができることに期待しています。

卒業される皆さん。ご卒業おめでとうございます。後輩は皆さんの後ろ姿に学び、新たな甲府昭和高校の創造に向けて一層努力すると思います。時には母校に思いを巡らせ、叱咤激励してもらえたら

と思います。最後になりますが、保護者の皆様方には、学年の活動をお願いいたします。

『自主創造』で未来を拓く

一学年主任 伊 藤 毅

第三十期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私は皆さんと同じ学年でスタートさせていた

だきました。今年度は皆さんの後輩となる第三十二期生の一学年所属となりました。皆さんと離れてしまいましたが、いつも廊下で会うたびに挨拶してくれました。皆さんが二年生だった昨年、沖縄研修旅行に同行できたことは私にとって貴重な思い出です。また、一緒に学んだ英語の授業はコミュニケーション能力を養うことを狙いとした内容で、毎回様々な話題に関して自分の考えや意見をまとめて互いに伝え合う活動をたくさん行いました。皆さんが積極的に取り組んでくれる姿を見て大変頼もしく感じていました。

さて、一学年はDesign Your Futureを大きな学年目標に掲げてスタートしました。さらにそれに続く三つの行動目標も設けました。①大きな目標実現のために何をすべきか(逆向き目標設定)、②考えや思いは行動に移す、③想像力と創造力を働かせる、の三つです。一年生の皆さん全員が意識してこの一年を過ごしてくれたと確信しています。在学中のみならず、将来にわたって思い出してほしいとの願いを込めています。

現在の日本は、東日本大震災からのさらなる復興、二〇二〇年に控えた夏季東京オリンピックの開催など課題が山積しています。グローバル化という大潮流の中で、今後の日本が迎える進路は皆さん一人ひとりに大きくかかっています。そこでこれから時代に求められる若者は、まさに校訓である「自主創造」や「よき友を世界に求め」、「智を磨く」という校歌の歌詞に象徴される人材だと強く感じています。具体的には、既存の伝統や文化を大切にしつつ、医療、福祉、教育、科学、経済、芸術、スポーツなど様々な分野の垣根を越えて連携し、複雑で困難な課題でもクリエイティブな方法で解決を図ることで、新たな価値や考えを産み出して社会に貢献できる人です。すでに三十年以上も前にこうした校訓や歌詞を案出された本校創設期の先生方の先見の明に改めて驚かされます。最後になりますが、保護者の皆様にはこの一年間多大なるご理解とご協力をいただきまして心より感謝申し上げます。新たなステージを迎えた甲府昭和高校が新たな年輪を刻む一助となるよう、これからも引き続き生徒と共に励んでいきたいと思っています。

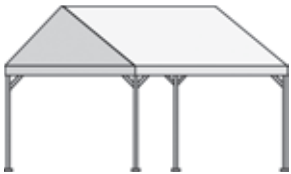
学校評価

平成 27 年度末学校評価（保護者アンケート）結果

【 1：そう思う 2：どちらともいえない 3：そうは思わない 4：わからない 】

No.	質 問 項 目	評価 (%)			
		1	2	3	4
1	快適な教育環境、学習環境が整備されている。	66.5	26.0	3.0	4.5
2	（学習指導要領に対応する）授業改善が行われている。	44.8	30.5	2.9	21.8
3	さわやか教育（さわやかな挨拶・服装・行動・環境づくり）により、生徒が規範意識や基本的な生活習慣を身につけている。	71.6	22.3	2.8	3.3
4	生徒が安全と健康に留意して学校生活を送っている。	77.5	19.3	1.1	2.1
5	生徒の実態、進路希望に応じた教育課程（教育活動）になっている。	59.4	27.9	4.8	7.9
6	教育活動全般が保護者、地域の方々に理解されている。	43.2	36.3	5.0	15.5
7	学校は講演会や、訓練等を通して学校安全（交通安全や防災）に取り組んでいる。	69.8	21.4	1.0	7.8
8	キャリア教育と進路学習を通して、生徒が主体的に進路を決定している。	55.6	31.8	3.6	9.0
9	進路実現のために保護者と共通理解ができています。	55.0	35.3	4.1	5.6
10	生徒の学力向上のために、課外、土曜講座、登校（宿泊）学習会、模擬試験、質問コーナー等が効果的に活用されている。	69.0	21.0	5.5	4.5
11	学校からの通知や案内が生徒から届いている。	65.5	21.3	10.1	3.1
12	学校からの便り（学年・進路・保健・生徒指導など）や授業公開等で学校の様子や情報を知ることができる。	60.1	29.1	7.3	3.5
13	しなやかな心の育成プロジェクトに家庭で取り組んでいる。	30.4	44.4	11.1	14.1
14	生徒自身が自らの健康について関心を持って健康管理に取り組んでいる。	52.3	36.5	8.4	2.8
15	学校の教育相談活動は充実している。	36.1	35.3	5.7	22.9
16	エネルギー関連施設見学やクリーンキャンペーンなどを通してエネルギー教育、環境教育が推進されている。	43.4	30.5	5.4	20.7
17	生徒の声が授業に反映されている。	22.7	37.3	8.1	31.9
18	学習活動や読書などにおいて生徒が図書館を利用している。	29.3	33.4	17.4	19.9
19	教養公演会（今年度は演劇）により豊かな感性や教養が生徒に育成された。	48.3	31.2	4.9	15.6
20	生徒会活動が活発で、生徒のリーダー性、社会性が育っている。	44.7	26.9	5.6	22.8
21	わかりやすく、魅力的なホームページになっている。 *この項目に関しては 1：そう思う 2：どちらともいえない 3：そうは思わない 4：見たことがない	39.0	34.8	7.1	19.1
22	緊急時などに連絡事項を掲載するホームページ上の「昭和高校連絡掲示板」は、適切に機能している。	62.8	21.4	5.5	10.3
23	三者懇談・保護者説明会が効果的に実施され、家庭と学校の連携に役立っている。	71.2	23.6	2.6	2.6

第 30 期卒業生
卒業記念品



テント

学園祭・強歩大会などで
利用して下さい。

第 30 期卒業生一同

紫映残照

二〇一五年は、「平和」の尊さ・大切さとその実現・維持について、多くの人々が様々な方面から再認識をさせられた年であった。戦後七十年目における全国での戦没者追悼式や戦争体験を伝える催しなどの開催、国会の安全保障関連法案の審議を巡る老若男女全ての世代における世論の高揚、多数の死傷者が出たバリの同時多発テロ事件……。そのような中、本県出身の北里大学特別栄誉教授、大村智先生がノーベル医学生理学賞を受賞された。先生が開発した抗寄生虫薬「のイベルメクチン」とその無償供与により、毎年、アフリカや中南米の熱帯地域の住民三億人以上が、重篤な熱帯病の感染から救われてきたというもので、ノーベル財団は「人類への計り知れない貢献」と讃えており、ノーベル平和賞にもふさわしい業績であるといわれている。業績のすごさはもちろんだが、このニュースを通じて初めて知ることができた大村先生の芸術・文化・教育振興支援等への多彩な社会貢献に、多くの人々が心惹かれた。故郷山梨県の科学技術振興のために基金を出し「山梨科学アカデミー」を創設。児童・生徒を対象にした科学賞も設け、科学技術の普及と人材育成を手がけている。また、実家の隣接地に韮崎大村美術館を建設して市に寄付。さらに美術館を見学したあと、温泉に入り、おいしい蕎麦を食べてゆっくりしてもらおうと、その隣に温泉施設と蕎麦屋も作った。先生は、祖母から「一番大事なこととは人のためになることだ」と教わり、分かれ道に立った時は、それを基準に考えたという。「人のためになる」活動を積み重ね、それを周囲に広めていき、皆で実践していくことが、人々の生活や命を守ることにつながる。それは紛れもなく「平和」を築く第一歩となる。本校の校歌にも「人のため 力尽くして輝ける 明日を築かむ」とある。大村先生の心を受け継ぎ、私達も身近なところから、少しでも「人のためになること」を、さわやかに行っていくたいものである。（教頭 佐野 修）